

あゆみ通信

VOL. 194

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

聞法会スタート



4月18～20の教区慶讃法要に団体参詣を終えて、昨年、10月に最終の第2組聞法会がスタートしました。

5月24日(土) 午後2時から天王寺区の稱念寺(岸野龍之住職)を会場に、久しぶりに講師の大橋恵真先生(第18組遠慶寺住職)をお迎えして、あいにくの雨で足下が悪い中を組内の住職や坊守、寺族と門徒や推進員19名が参加しました。真宗宗歌で開会、「正信偈」「念仏・和讃」「回向」を岸野龍之住職の調声で勤めました。

今回から、『正信念仏偈』の「依積分」と言うことで、①「印度西天之論家 中夏日域之高僧 顯大聖興世正意明如来本誓応機」と②「釈迦如来楞伽山 為衆告命南天竺 龍樹大士出於世 悉能摧破有無見」について、学びました。

先生は、最初に構成について、復習として説明された後、それぞれの「訓読」「語句の意味」「意識」「考察」についてお話されました。

特に、今回のメインの課題の「有無の見」について、「歎異抄」の親鸞聖人のお言葉を紹介されながら「執着す



る心が私たちの迷いを深め、苦悩の基になっていることと、詳しく説明いただきました。

(先生の法話要約は次号で)

6月・7月の聞法会

ご参加の皆さんは教材『初めての正信念仏偈』を忘れずにご持参ください。

(初参加の方には、当日受付でお渡しします)

第2回

日時 **6月17日(火) 午後2時**

会場 専行寺(天王寺区堂ヶ芝)

講師 大橋恵真先生

参加費 500円

第3回

日時 **7月15日(火) 午後2時**

会場 法山寺(阿倍野区天王寺町)

講師 宮部渡先生(15組西稱寺)

参加費 500円

第2組青年住職有志と合同研修会を開催(案内)

あゆみの会では、共同教化の一環として、次世代を担う青年住職(若院を含む)有志と2015年9月から合同研修会を持ち、共に学び合っております。今回、下記の通り開催いたしますので、ご参加の方はくれぐれも熱中症対策を忘れずにご参加ください。

日時 **6月12日(木) 14:00**

会場 稱念寺(天王寺区夕陽丘)

講師 喜左上信証先生(紹隆寺)

参加費 無料

その他 ご参加の方は、必ず6/5までに、事務局の本持までご連絡ください。なお、ご門徒会の参加も歓迎します。

第2組教化委員会報告

次年度第41回第2組同朋大会の講師等決まる

去る5月16日(金) 午後6時から光照寺(墨林浩組長)で、第2組教化委員会が開催、住職、坊守、寺族と門徒会役員、あゆみの会会長等18名が参加し、これまでの仏事並びにこれか

親鸞のことば

外見をとりつづろう私たち

**愚禿が心は、内は愚にし
て外は賢なり 愚禿抄**

博識で、人当たりもよい、人格者のように見えても、その心の中は決して澄み切ってはいないものです。むしろ完璧に見える人ほど、怒りや不満が渦巻いていることも多いもの。

親鸞は鋭い目で人間や自分自身を見ていました。内面は煩惱でいっぱいなのに、外見は賢そうに見せようとする。そんな自身を「愚禿」と名乗るようになりました。「禿」の字は、煩惱にとらわれる「凡夫」とであるということです。そこには自身のあさましさへの深い悲しみと懺悔が表れています。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

過去帳から

お朝事に思う③

妹は戦後間もない1946(S21)10月に生まれましたが、今でいう難病の黄疸に罹り、わずか一年にも満たない1947(S22)7月に阪南町の長屋で亡くなりました。父母の歎きはいかばかりだったでしょうか。

僕自身も、小さい頃から罹った小児結核で病弱のため、保健所の職員さんが来て、めがねの肝油を飲んでいたことを覚えています。

以後、弟や妹のことを忘れて、戦後の混乱期に、一人っ子のように父母に育てられ、小学生の頃は、通信簿に「元気になって、登校日数を増やすように」と、ずっと書かれていたことを思い出します。

気が付けば、父母や弟、妹に見守られ、これまで愚痴に不足、不平、不満の人生が、曲がりなりにもお内仏の前で、お勤めとは、仏法不思議としかありません。底深くの法蔵菩薩さんに、「それで、ええのか？」と問われ続けた結果でしょうか。(本)・

らの仏事について、協議されました。結果は、29日(木)午後7時から唯専寺(迹見坊守)で開催の組会で協議決定されました。

第41回第2組同朋大会

日時 2026年3月7日(土)

午後1時30分～

会場 難波別院同朋会館講堂

講師 真城義麿先生(前大谷中学・高等学校校長、四国教区善照寺住職)

第2組合同報恩講・同朋総会

日時 11月21日(金) 午後4時

会場 即應寺(藤井真隆住職)

講師 調整中

紙上法話

和国の教主⑦

親鸞聖人における聖徳太子観

池田勇諦先生

逆修説法

「空無我」
このこと
から思い
出される
ことがご
ざいます。

東京に
「坂東報
恩寺」と
いう名刹
がござい
ます。

その前住職が坂東性純先生でした。昭和七年生まれで、大谷派において世界に通用するお一人という評価がなされていたお方です。実は性純先生のお父さま、坂東環城先生に私は大変可愛がっていただきました。目をかけてくださいました。そのご縁から性純先生にも出遇い、いろいろと教えていただきました。お遇いする度に必ず何か貴重なことを聞かせてくださった。性純先生は、平成16年にご病気で亡くなられたのですが、まだ60代でしたから、今でも私は何とも言えない無念さを感じております。



ばんどうしょうじゅん



かつて私は性純先生に「逆修説法」についてお尋ねしたことがあるのです。「逆修説法

というのは、生前に没後の仏事を繰り上げて勤めることです。歴史的には平安京の時代から、特に貴族の女性方の中で行われていたと伝えられております。親鸞聖人が編纂なさった法然上人の言行録「西方指南抄」という書物にも、法然上人も求めに応じて「逆修説法」に度々出かけておられることが書かれています。ですから、平安期、鎌倉期の仏教について話されると、決まって出てくるのがこの「逆修説法」なのです。

その時の私の質問に対して、性純先生はご自分の意見は何も言われず、鈴木大拙博士のご葬儀の折のひとつの逸話を聞かせてくださいました。ご葬儀は、東京と京都と2回行われましたが、東京の葬儀の折に、列席されたスウェーデンの駐日大使が「死ぬ前から死んでいる人は、死ぬ時には死なないという教えが西洋にはあるが、鈴木大拙先生はまさにそのようなお方でした」(坂東性純「心のとるかたち」真浄寺)と言われたと、性純先生は私に教えてくださいました。皆さん方は、この逸話をどうお聞きになりますか。性純先生は、直接的にお答えにならず、「逆修説法」と言うことをこの言葉でから受け止めてみたらいかがでしょうかと私に問いかけてくださったと思うのです。

「生きとるうちに葬式せえ」

そこで思い合わせましたことは、私を仏道に導いてくれた直接の師である祖母がよく言っていたことなのです。実は小松市白江町に居られた勸帰寺さんのご門徒、北村金次郎と言う方も顔を合わせる度に祖母と同じことを言われま

お悔やみ申し上げます 北平康雄さん(安養寺)

去る3月29日(土) 闘病中の北平さんがご逝去されました。

北平さんは、第3期養成講座(2012～13年)に参加され、以来入会していただきました。事務局の記憶では、本山研修の第2班で、終了直後の第2組同朋大会にお目にかかりました。以後は、ご病気でしたが、お世話の松本西教寺住職を経由して、会費をいただいていた。南無阿彌陀仏。



池田勇諦講述
質疑応答・座談 所収
電子会通巻第
一仏の教えは家に在り

和国の教主

親鸞聖人における聖徳太子観
令和七(二〇二五)年 聖徳太子四〇〇年御成吉思

したね。ちなみに北村金次郎さんは白江町の同朋会館を創りあげた人物でした。白江町の

皆さんは、実に熱心に聞法相續しておられましたね。北村さんが亡くなられてから、もうずいぶん経つと思いますが、かつてのご門徒は、こういう言葉を始終聞き合い口にしておられたのですね。それはどういう言葉かと申しますと、「仏法聞くって言うことは、生きとるうちに自分の葬式をさせてもらうことや」。北村さんはなかなか念が入った言い方でした。「聖人一流の御勸化のおもむきは、信心をもって本とせられ候う」と言うことは、どういうこっちゃ。生きとるうちに自分の葬式せえちゅうことや」と。いつも言っておられましたね。北村さんにご縁のあった方なら、きっと耳になさっている言葉だろうと思います。・・・皆さん方なにやら、ポカーンとしておいでるね。(笑) こういうことを聞いたら、飛び上がらなアカン」と聞いてから、飛び上がとったんでは、ますますアカンけどね。(笑) (つづく)